

歩いて見よう

藤沢宿を歩いて見ると面白い…

400年前は東海道五十三次の6番目の宿場町だったんだって…

明治時代は肥料販売、農作物保管販売の流通地区として栄えたんだって…

市の発祥地として市の役場、警察、銀行が軒を連ねる官庁街だったんだって…

藤沢の歴史はここから始まったんだって…

藤沢宿

～トランスボックス・ラッピング巡り～



4p 「藤沢宿」って

慶長6年(1601年)東海道五十三次の宿場として誕生。「東海道分間延絵図」から藤沢宿の姿を知りましょう。

5p 「浮世絵」巡り

浮世絵から当時の賑やかな藤沢宿の様子がうかがえます。

9p 「柳通り・銀座通り」巡り

懐かしい昭和初期のまちなみや商店街の祭事等を知る事が出来ます。

13p 「藤沢宿」巡り

江戸時代の宿場の様子、明治初期から昭和初期の建物等このまちの姿の変遷が分ります。

20p 藤沢宿案内コーナー

歴史に残る旧市役所本庁舎、藤沢駅北口の姿や旧藤沢宿スポットがご覧頂けます。

21p 見どころポイント

神社仏閣巡り…所々にお社、個人宅にもお社が祀られており、地域の特性を引き出しています。旧家の紹介…火災、震災等で各時代の姿は消滅するも、僅かに残る店蔵などをご覧頂けます。

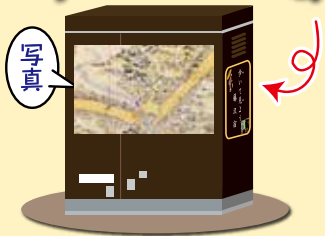
24p チョット立ち寄って味わってみよう

藤沢宿周辺にある飲食店や和菓子店を紹介します。

トランスボックス
ラッピング巡り

歩いて見よう藤沢宿まっぷ (トランスボックス)

これがトランスボックスだよ



- 神社仏閣 21・22P
- 史跡
- 蔵と町家 23P
- トイレ
- 藤沢のお店 24~28P



江戸時代の宿場の様子や明治からのまち並みや建物など、この地の「まち姿」をラッピングしました。【13p~19p】



歩いて見よう
藤沢宿まっぷ

藤沢で最も古い商店街の懐かしい繁栄している写真や金魚すくい等の賑わいの様子をラッピングしました。【9p~12p】

歩いて見よう
トランス写真まっぷ



・ラッピング巡り)

遊行寺橋を中心に賑わった街道筋の様子や歴史的伝承の「浮世絵」をラッピングしました。【5p~8p】



藤沢市役所、藤沢駅北口、藤沢宿景観や神社仏閣等が見られます。【20p】

歩いて見よう



「藤沢宿」って

私達の住む街道は江戸時代の東海道五十三次の6番目の宿場として栄え、また5街道の分岐点として重要な地域でした。時代の変遷と共に姿が一変しましたが、400年前からのこの地の姿を知って頂きたいと思います。遊行寺坂の江戸方見付、伊勢山橋を越した辺りの京方見付の間の街道に御殿、本陣、問屋場、旅籠の施設がありました。



「東海道分間延絵図」から街道の姿を現在と併せて書いた絵図。当時の家並みをピンクで書いています。入口狭く奥行き深くが特徴です。



「東海道分間延絵図」で江戸幕府が道中奉行に命じて測量に基づいて作らせた街道の詳しい地図で、江戸時代のこの地の様子が描かれています。



「相中留恩記略」渡内村名主福原高峯が天保10年(1839年)に幕府に献上したこの地の絵図。家並み、街道を行く人等々の雰囲気が出ています。

当地の変遷

鎌倉時代	1325年第4代呑海によって「藤沢山清淨光寺(遊行寺)」創建
室町時代	伝馬制度発足により宿駅に伝馬を常駐され、1555年藤沢は宿駅として発足
安土桃山時代	慶長元年(1596年) 御殿、代官屋敷が設置される。 慶長6年(1601年) 伝馬宿となり、伝馬36疋常置義務化される。
江戸時代	寛永11年(1634年) 本陣(大名の宿泊施設)、脇本陣が設置される。 天保14年(1843年) 頃の宿場の規模—人口4089人、家数919軒、本陣1、脇本陣1、問屋場2、旅籠45。江の島・大山・鎌倉への信仰と物見遊山を兼ねた客で旅籠屋や商家が繁盛する。
明治時代	明治3年(1870年) 本陣、脇本陣廃止 明治4年(1871年) 藤沢郵便局設置 明治10年(1877年)頃、人口6214人、家数1249軒 明治11年(1878年) 高座郡役所設置 明治12年(1879年) 大火—警察はじめ230戸焼失 明治13年(1880年) 大火—400軒焼失 明治20年(1887年) 藤沢停車場開設
大正時代	大正5年(1916年) 藤沢町役場設置(昭和15年市制がひかれそのまま市役所となる) 大正12年(1923年) 関東大震災で壊滅状態となる。
昭和時代	昭和4年(1929年) 小田急線開通(長後～江ノ島間) 昭和26年(1951年) 市役所が朝日町に移る。

藤沢宿の変遷

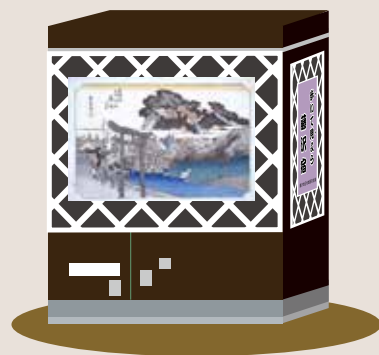
江戸時代	将軍・大名や朝鮮・琉球・オランダ等の外交使節団往来。5街道(東海道・江の島・大山・鎌倉2)の分岐点。大山詣・江の島詣の旅行客で賑わう。旅人、遊行寺関連で多くの浮世絵が描かれる。
明治時代	地の利を活かした問屋業を中心に発展。農作物の集荷場となり、農家に肥料を販売し、麦を中心とした生産物を買取る米穀肥料商が多く居を構え流通基地として栄えた。
大正時代	明治後半からの繁栄が続くが、度重なる大火や自然災害、大震災発生で幾度もまち全体が壊滅状態となる。しかし再生した当時の面影を残す土蔵や商家建築(町屋)が多くあった。
昭和時代	町役場が設置された事により、市の中心地として警察署、銀行、郵便局等公的機関が設置され官庁街として「まち」が形成される。市役所移転、経済環境の変化、家族形態の変化により、「まち」の形態が徐々に変化してきたが、明治初期時代から昭和初期の店舗や店構え、米穀肥料商等の流通基地の面影を残す土蔵の維持保存をしながら、新旧マッチした新たな特色のある「まちづくり」への息吹が漂っている。

「歩いて見る」ポイント

- 1 藤沢宿は藤沢橋・藤沢本町周辺を核として街道が、街道に沿って裏道と奥道が、奥道は仏閣、緑地に繋がり境川が流れる特色あるまち姿
- 2 街道沿いには間口が狭く、奥行きがある建物や敷地構成が現存し江戸時代のまち姿を残しています。
- 3 明治初期から昭和初期の建物が僅かに現存しています。

トランスボックス・ラッピングって？

「藤沢地区郷土づくり推進会議」では、電柱の地中化に伴い設置されたトランスボックスに、まちの変遷してきた姿や浮世絵などをラッピングしました。このトランスボックスを見て、地域の方々にはこの地の歴史を学び、郷土愛醸成のお役に立てていただき、訪れるの方々には藤沢宿に親しみを持っていただければと思います。



十四代将軍家茂の上洛にちなむ東海道シリーズで「上洛東海道」と言われているものの一つです。

鳥瞰的な構図で遊行寺坂上から大鋸橋（現遊行寺橋）まで続く行列の長さが強調されている絵です。

手前の鳥居は江の島一鳥居です。遊行寺の山門は現在と異なり仁王門となっています。



作者 橋本貞秀 /
製作時期 文久3年(1863)

① 東海道名所之内 ふちさハ 遊行寺

作者 初代 歌川広重 /
製作時期 天保3年(1832) /
天保4年(1833)



広重には東海道の風景を描いたシリーズがいくつもあり、このシリーズは一般に板元の名から保永堂版東海道と呼ばれています。構図の良さや着眼点を受けて広重最高傑作シリーズと呼ばれています。図は江の島一鳥居を遊行寺を背景に描いたもので大鋸橋（現遊行寺橋）付近が大山詣や江の島詣の参詣者で賑わったことを示しています。

② 東海道五拾三次之内 藤沢 (保永堂版)

女性の艶姿を前景に大きく描いた「美人東海道」シリーズの一つで、背景には江の島一鳥居付近の様子が描かれ、旅姿の女性像の右側には、宮戸連（俳句の結社）其生の「此しゆく(宿)にゆかりの色や杜若(かきつばた)」という句が添えられています。



作者 溪斎英泉 /
製作時期 天保4年(1833)頃

③ 藤沢宿

「五拾三次景色入女画」シリーズの一つで、バックの風景画は広重の保永堂版東海道に非常によく似ています。保永堂版に描かれた時間を少し進めたような感じですが、後ろの小山は遊行寺で、大鋸橋（現遊行寺橋）付近を表しています。



作者 三代 歌川豊国(国貞) /
製作時期 天保10年(1839)頃

④ 東海道五拾三次之内 藤沢図

十四代将軍家茂の上洛を意識して出版された「上洛東海道」と同じく、宿場の風景に行列を描き込んだシリーズです。朝霧のなか、大鋸橋（現遊行寺橋）を行列が通り過ぎていくところをシルエットで描いたもので、左手前の鳥居は江の島一ノ鳥居。上方の屋根は遊行寺のものです。



作者 二代 歌川広重(重宣) / 製作時期 文久3年(1863)

5 東海道 藤沢

人気歌舞伎役者をゆかりの宿場を背景に描いたシリーズ。「一眼(目)千両(ひとめせんりょう)」とは、一目見ただけで千両という大金を払う価値があるというたとえです。白波五人男の一人、女装した弁天小僧菊之助に扮する四代市村家橘(いちむらかぎつ。のちの五代尾上菊五郎)が「知らざあ言って聞かせやしょう」と見栄を切るところです。



作者 豊原国周・三代 歌川広重(重政) / 製作時期 慶応3年(1867)

6 東海道一ト眼千両 藤沢 弁天山僧菊之助

作者 初代 歌川広重 / 製作時期 嘉永4年(1851)



遊行寺山門の雪景色で、現在よりも急な参道の突き当たりには重厚な仁王門が描かれ狂歌が添えられています。この門は江戸時代に遊行寺が発行している境内絵図にも同様に描かれています。

7 東海道名所 藤沢 遊行寺

作者 初代 歌川広重 / 製作時期 天保13年(1842)



このシリーズは表題の書体から俗に行書東海道と呼ばれます。画面右に江の島一ノ鳥居、左に大鋸橋（現遊行寺橋）を描いています。橋の上には御神酒杓(おみきわく・大山から水や酒を持ち帰るためのもの)を担いでいる大山詣の帰りの一行が描かれています。

8 東海道五十三次之内 藤沢 (行書東海道)

三代広重描くこのシリーズは、明治前期の東海道各宿駅の風景が華やかな色彩で描かれています。大鋸橋（現遊行寺橋）には馬に乗った外国人が描かれ、明治時代を象徴しています。横浜居留地から十里四方以内は外国人の通行が認められていました。



作者 三代 歌川広重(重政) / 製作時期 明治8年(1875)

9 東海名所 改正道中記 藤沢 江のしまみちの鳥居

このシリーズは上部に文人墨客の文章と絵、下部には各宿駅ゆかりの故事、伝承や風景が描かれています。表題の「山帰」の山とは大山(雨降山)のことで、女性のうしろの縁台には、大山詣をあらわす御神酒杓(おみきわく。大山から水や酒を持ち帰る容器)が置かれています。また、右端の「電信柱」が、明治の街道を象徴しています。



作者 歌川芳虎 / 製作時期 明治5年(1872)頃

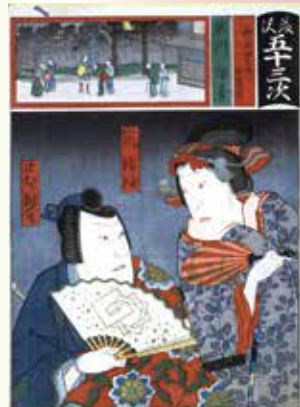
10 書画五拾三駅 相模藤沢 山帰定態

作者 初代 歌川広重
製作時期 弘化4年(1847)~
嘉永5年(1852)



11 東海道五十三次 藤沢
(隷書東海道)

このシリーズは表題の書体から俗に隷書東海道と呼ばれ、保永堂版、行書版と共に三大傑作シリーズの一つです。藤沢宿の夜の風景で、右側にある鳥居が江の島一ノ鳥居(江の島道入口)、左手にあるのが大鋸橋(現遊行寺橋)です。宿場に着いた人々と客引きをする宿の人々の様子が描かれ、にぎわいが感じられます。



作者 歌川国貞/
製作時期 万延元年(1860)頃

12 藤沢 五十三次
神谷伊右衛門お岩 霊

藤沢宿の立場「四ッ谷」に歌舞伎の外題『東海道四谷怪談』をかけて役者による見立にした作品です。神谷伊右衛門役に二代中村翫雀(かんじゃく)、お岩(霊)役に嵐璃珪(りかく)という二人の大坂の歌舞伎役者が描かれています。上部に描かれた絵は大鋸橋(現遊行寺橋)と江の島一ノ鳥居の組み合わせという藤沢宿の風景です。

文久3年(1863)の十四代將軍家茂の上洛を意識して出版された東海道シリーズで「上洛東海道」と言われているものです。この画は馬方が飾りを付けた馬の足の具合を見ているところでしょう。行列はすでに宿場を抜けようとしていて、馬がそちらを見据えている様子が印象的です。背後にある緑の三角は、大山です。



作者 歌川芳形/
製作時期 文久3年(1863)

13 東海道 藤沢 (上洛東海道)

このシリーズは前面に美人姿を大きく描いているので一般に美人東海道と呼ばれています。右端に「相州 江の嶋詣」とあるのでこの女性が江の島帰りであることがわかります。女性の脇の駕籠の上に乗っている品物は、江の島名物「アワビの粕漬け」です。背景(上段)は藤沢宿の景観で、後ろに見える山は大山です。



作者 初代 歌川広重/
製作時期 弘化4年(1847)~
嘉永5年(1852)

14 東海道五十三回会 藤沢
(美人東海道)

作者 初代 歌川広重
製作時期 天保11年頃(1840)



15 東海道五拾三次 藤沢
(狂歌入東海道)

このシリーズは図柄の中に狂歌が1首ずつ折り込まれているために俗に「狂歌入東海道」と呼ばれています。保永堂版と反対に遊行寺の側から大鋸橋(現遊行寺橋)と江の島一ノ鳥居を描いたもので、背景にある山は大山です。橋の上の人物が担いでいるのは御神酒杯で大山詣を象徴しています。橋のたもとの高札場など、宿場の様子も窺えます。

作者 落合芳幾/
製作時期 万延元年(1860)



このシリーズは大ヒットした十返舎一九(じっぺんしゃいっく)の『東海道中膝栗毛』を摸して作られています。芳幾が弥次さんと喜多さんの二人が各宿でくりひろげる道中模様をユーモラスに描き、魯文が各宿のテーマとなる文章、狂歌一句と二人の会話をおもしろおかしく記しています。(二人が狐拳(きつねけん)に興じているところです。)

16 東海道中栗毛彌次馬 藤沢

このシリーズは「武者絵」シリーズと呼ばれ、国芳が武英名馬競(武将とゆかりの名馬の組み合わせ)を描いたものです。この絵は、藤沢ゆかりの小栗小次郎助重と、小栗判官物語に登場する鬼鹿毛が描かれています。



作者 歌川国芳／
製作時期 弘化4年(1847)～
嘉永5年(1852)

17 武英名馬競 小栗小次郎助重

このシリーズは、初代広重、三代豊国、国芳の3人の当代表的人気浮世絵師が分担して描いたものです。この絵は国芳の手による小栗判官照手姫で、いったん地獄へ落ちた小栗が熊野で本復した様子を描いています。岩を持ち上げているのが小栗で、しゃがんで驚いた様子をしている女性が照手姫。小栗の後方の滝は那智の滝です。



作者 歌川国芳／
製作時期 天保14年(1843)～
弘化4年(1847)

18 東海道五十三対 藤沢

作者 歌川 芳員／
製作時期 嘉永6年(1853)



このシリーズは芳員が各宿場にまつわる伝説や逸話を面白おかしく紹介しています。藤沢の場面では、侍と馬が囲碁を打っているもので、藤沢ゆかりの『小栗判官照手姫伝説』に登場する「鬼鹿毛乗馬の段」を暗示しており、侍が小栗判官、馬が鬼鹿毛、横で見ている女性が照手姫です。鬼鹿毛が轡(くつわ)の印の浴衣を着ているのもご愛敬です。

19 東海道五十三次之内 藤沢
ひらつかへ二り余

このシリーズは、広重と豊国との双筆(合作、描き分け)で描かれています。人物は『小栗判官伝説』の主人公の一人の照手姫で、地獄からよみがえって土車で熊野まで送られた夫の小栗を、車の綱を引いて運んだという当時有名な話を絵の題材にしています。特に解説をしないでも、街道で車を引く女性というだけで照手姫だと分かったものでしょう。



作者 初代 歌川広重・三代 歌川豊国／
製作時期 安政元年(1854)

20 双筆五十三次 藤沢

このシリーズは「役者見立東海道」と呼ばれ、各宿ゆかりの歌舞伎役者を大きく描き、背景にその地方の風景を添えた絵で、こうした趣向を見立(みたて)といえます。この画は藤沢宿ゆかりの物語「小栗判官照手姫伝説」を描いており、扮する役者は坂東竹三郎(のち、五代坂東彦三郎)、背景は初代広重の保永堂版東海道の構図を使っています。



作者 三代 歌川豊国(国貞)／
製作時期 嘉永5年(1852)

21 東海道五十三次之内 藤沢
小栗判官(役者見立東海道)

このシリーズは「雪月花」シリーズと呼ばれ、周延が各地(国)の歴史や伝説上の人物を花に見立て描いています。この絵は、相模の国「横山の花」照手姫を花に見立てて描いたものです。小栗判官物語では、照手姫は武蔵・相模郡代である横山氏のひとり娘と言うことになっています。



作者 楊州周延／
製作時期 明治18年(1885)

22 雪月花 相模 横山の花
照手姫 小栗判官

1 義経を祀る白旗神社

藤沢地区景観ベストテンより



源義経公を祀る白旗神社。こんもりした森が国道467号に隣接し、市街地に潤いを与えます。

2 旧藤沢宿、門前町の神社仏閣

藤沢地区景観ベストテンより



国道467号から少し奥に入ると多くの神社仏閣が点在し、立派な樹木も多く残ります。

3 伊勢山公園

藤沢地区景観ベストテンより



伊勢山からは江の島がよく見えます。古くから桜の名所として、地元で親しまれてきました。

4 旧海軍時代から続く横須賀水道みち

藤沢地区景観ベストテンより



昔、横須賀の海軍が水道を埋設するために整備したと言われるまっすぐな道。

5 時宗総本山遊行寺

藤沢地区景観ベストテンより



一遍上人が開祖の時宗総本山。盆踊りのルーツと言われている「踊り念仏」ゆかりの地。

6 旧東海道六番目の宿場町 旧藤沢宿

藤沢地区景観ベストテンより



関東大震災以降の建物を中心に、旧東海道の面影を残す土蔵や商家建築が点在しています。

7 遊行寺からの江の島詣 旧江の島道沿い

藤沢地区景観ベストテンより



東海道と江の島道の分岐には「蔵前」という地名があります。江戸時代からの問屋街の面影が感じられます。

8 市役所周辺の桜

藤沢地区景観ベストテンより



春には、国道467号線から見上げる市役所の土手斜面から、セリ出すように桜が咲きます。

9 東館(芝居小屋、相生町、昭和初期頃)



当時は活動写真の殿堂と評されました。日活の特約館であり、演芸・レビュー・無声映画の上演・上映で人気を呼びました。ちなみに日本初の映画のロケ地は片瀬海岸でした。

10 藤沢 劇場(遊行通り、昭和12-15年)



元は旅役者が芝居小屋として創立しましたが、後に芝居と映画を交互に上映するようになりました。

11 フジサワ中央(映画館、遊行通り、昭和46年)



創業は昭和25年、藤沢駅南口で開業し、昭和47年まで営業を続けましたが、小田急百貨店の建設のため、一度閉館し、昭和52年に北口で「フジサワ東映」を館名変更して、「フジサワ中央」として再スタートしました。深い色のじゅうたんや重厚感のあるドア、天井にかかるシャンデリアなどが時代を感じさせる映画館でした。柳通りに昭和61年に映画館として新たに建てられたビルは現在、ギター音楽院のライブ館として使用されています。

12 フジサワオデオン座(映画館、銀座通り、昭和12-15年)



元東館の映画技師が横浜オデオン座から館名を買収して創立しました。

13 「金魚ちょうちん」

藤沢銀座土曜会



山口県柳井市の古くからの民芸品として、「柳井金魚ちょうちん祭り」でモチーフとされており、平成15年夏より金魚を通じた交流がきっかけとなり、「ギネス認定世界一大きい金魚すくいゲーム」にも登場しています。

14 「きんた」

藤沢銀座土曜会



金魚ちょうちんの街、山口県柳井市の協賛により製作しました。ネーミングは全国の応募の中から藤沢市の小学生の「きんた」に決定しました。平成17年夏より金魚すくいゲーム会場のマスコットとなっています。

15 「ギネス認定世界一大きい金魚すくいゲーム」

藤沢銀座土曜会



家族で楽しめる夏の風物詩のイベントとして平成11年より始まり、現在、全長63メートルの水槽に金魚4万5千匹、メダカ1万匹、ドジョウ2千匹を放ち、毎年、5万人近くの方々にご来場いただいています。

16 ギネス認定証

藤沢銀座土曜会



「世界一大きい金魚すくいゲーム」では、平成11年第1回大会で50.4メートルの水槽に金魚3万匹などを放し、平成12年8月に初めてギネスに認定されました。その後、平成14年に100.8メートルの水槽に金魚6万匹、メダカ1万5千匹など規模を拡大し、平成15年7月、再度ギネスに認定され、現在もその記録を保持しています。

17 「あんどん物語」

藤沢銀座土曜会



平成11年7月より「ゆたかな心を育むまちづくり」をモットーに始めました。「夏の思い出」をテーマに藤沢市内の小学校が描いた愛らしいイラストがあんどんとなり、藤沢駅北口界隈の夏の夜空を明るく照らします。

18 サム・ジュ・モール完成

藤沢銀座土曜会



平成元年7月より、「緑と太陽と石畳の街」をキャッチフレーズに、シンボルタワーやモニュメント等を設置し、やすらぎと親しみのある美しい街路を作り上げ、「サム・ジュ・モール」として生まれ変わりました。

19 「万歳 花の市」

藤沢銀座土曜会



平成3年4月より、毎年「みどりの日」にちなんで「万歳花の市」を開催していました。また、5月の節句を祝い、600匹の色とりどりの鯉のぼりが飾られ、五月晴れの天空を優雅に泳ぐ姿は壮大でした。

20 「ふじまつり」



昭和30年5月に商工会議所の主催により第1回「ふじまつり」が開催されました。その後、昭和42年に市主催により産業観光まつりと合体した、「藤沢まつり」が開催されるようになりました。そして昭和49年には広く市民の参加を募る現在の「藤沢市民まつり」へと変わりました。

21 銀座通り



昭和50年頃の銀座通り入口です。

22 銀座通り



昭和40年頃の銀座通り入口です。

23 銀座通り入口



銀座通りは東仲通りを経て白旗神社方面へ抜ける道として大正時代に整備されました。

24 銀座通り入り口門柱



昭和15年頃の銀座通り入口です。昭和15年は市制施行の年であり、お祝いのアーケードが設けられました。また、神武紀元(皇紀)2600年の年でもあり、全国で大々的な祝賀行事が行われていました。

25 藤沢駅北口広場



戦後の経済成長とともに藤沢駅の利用者は年々増加しました。当時、駅周辺の道路やバス乗り場などは未整備状態で混乱していました。

26 藤沢町喜楽町通り



大正13年当時の喜楽町通りです。藤沢駅北口周辺にある喜楽町は空襲から藤沢駅を護るため、建物疎開の対象地域となっていました。そのため、破壊された家屋が数多くありました。

27 江ノ電藤沢駅(昭和5年)

教育委員会蔵(神田写真館撮影)



明治33年に江之島電気鐵道が設立され、同35年9月1日に藤沢-片瀬間が開通しました。その後、同43年には鎌倉-小野駅が開業し、藤沢-鎌倉間が全通しました。駅舎は関東大震災の後、新装となりモダンな建物となりました。かつては地上駅で、当時の国鉄藤沢駅に隣接していましたが、駅周辺の再開発に伴い、現在の駅ビル方式、階上2面1線の構造となりました。

かつては地上駅で、当時の国鉄藤沢駅に隣接していましたが、駅周辺の再開発に伴い、現在の駅ビル方式、階上2面1線の構造となりました。

28 小田急藤沢駅(昭和12-15年)



昭和4年4月に小田原急行鐵道江ノ島線が開通し、藤沢駅も同時に開通しました。駅舎は国鉄藤沢駅南側に階段でつながった地上駅で、片瀬江ノ島駅へ向かう列車はここでスイッチバックを行いました。

29 JR藤沢駅

教育委員会蔵(神田写真館撮影)



駅入り口付近には客を待つ人力車、六角形の電話ボックスが見えます。

30 柳通り(昭和45年)



昭和45年頃の柳通りです。柳通りは、強制疎開の跡地に戦後住居を壊して道路を作り、柳を植えて柳通りと呼ばれるようになったのが名前の由来です。かつては、料亭、見番、置屋が軒を連ね、独特の風情がありました。島倉千代子の「柳小路」という歌はその風情をモチーフにして生まれました。

かつては、料亭、見番、置屋が軒を連ね、独特の風情がありました。島倉千代子の「柳小路」という歌はその風情をモチーフにして生まれました。

31 割烹旅館角若松(昭和10年頃)



横浜～国府津間に鐵道が開通し、藤沢停車場が新設された際、駅前に料亭若松が開業されました。当時、東海道、江の島、遊行寺を要する藤沢には多くの旅館・料理屋がありました。

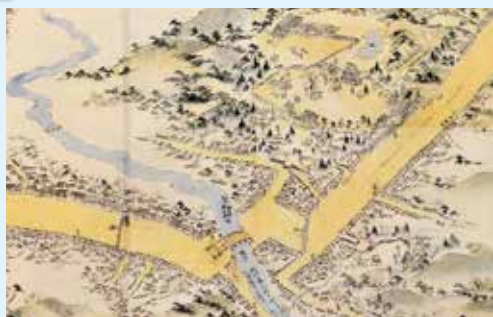
32 割烹旅館稲毛屋(昭和10年頃)



遊行通り入口にあった駅前旅館の稲毛屋。向かいの料亭角若松とともに北口を象徴する存在でしたが、昭和30年代末の北口再開発によって姿を消しました。



1 大鋸橋(現遊行寺橋)付近の様子



「東海道分間延絵図」からの大鋸橋付近の様子です。遊行寺、旅籠街、大鋸橋(現遊行寺橋)界隈の様子が分ります。遊行寺から大鋸橋にかけて軍事防衛のために造られた「枅形」が見られます。



2 大鋸橋(現遊行寺橋)付近の様子(拡大図)



「東海道分見延絵図」に見る大鋸橋付近のまち並み。遊行寺、旅籠街、大鋸橋、江の島一ノ鳥居、高札場等が見られます。ラッピングされたトランスボックス付近の当時の様子です。



3 旅籠の様子



歌川広重の浮世絵をもとに大鋸橋(現遊行寺橋)付近の賑わいを描きました。旅籠の様子、旅籠の呼び込み、一ノ鳥居、通行人の恰好…。江の島詣で、大山詣でで多くの人々が行き交う当時の賑わったまちの姿が目に見えます。



4 歌川芳虎「東海道名所図会」から



歌川芳虎「東海道名所図会」12枚続きのうち、初めの2枚(江戸城～平塚)。徳川将軍一行の上洛の行列(想定)を描いたもので、全編が行列の連続です。上段に藤沢宿の風景(「遊行寺」や江の島一ノ鳥居)が描かれるなど、細かな名所も標示されていて楽しい作品です。



5 藤沢宿の中心地の様子



「東海道分間延絵図」に見る大久保町や坂戸町の様子。脇本陣・柏屋半右衛門、問屋場等のまち並みの絵図。ぎっちり軒が連なっているのが分ります。ラッピングされたトランスボックス付近の江戸時代のまち風景です。



6 藤沢宿復元図



「東海道分間延絵図」等から江戸時代の藤沢宿のまち並みを復元した絵図。まち並みと町名、そして今のまち並みを重ねてご覧ください。ピンクは当時の家並み。

7

蒔田本陣付近のまち風景



そう ちゅうりゅう おん きりゃく

「相中留恩記略」に描かれた蒔田本陣(坂戸町)付近の街道風景。本陣は180坪の豪邸で、公家や参勤交代の大名等身分が高い人が宿泊できました。表間口は13間、約400坪の敷地。蒔田家は戦国武将の系譜を引き明治初年まで本陣を務めました。

8

藤沢御殿の様子



郵政博物館所蔵「東海道絵巻」から藤沢御殿部分。「東海道絵巻」は江戸時代初期から中期の東海道を描いた巻物で「江戸城本丸」から「京二条御城」まで絵が描かれています。藤沢御殿は家康、秀忠、家光の3代に寛永11年(1634)まで28回利用されました。資料によると、四方は水堀で囲まれ、表門の西側には御殿番所、東側に代官屋敷が立ち並び総面積は6000坪に及んでいました。現在でも御殿橋、陣屋小路、御殿辺などの地名が残っています。

9

「東海道分間延絵図」にみる坂戸町風景



脇本陣(和田七五郎右衛門家)や問屋場付近の様子。ラッピングされたトランスボックス付近の当時の姿です。

10

藤沢宿の中心地の様子



江戸方見付から京方見付までの藤沢宿全体が描かれています。

11

藤沢宿全景



「相中留恩記略」に描かれた藤沢宿の様子を描いた絵図。鎌倉郡渡内村(現藤沢市渡内)名主福原高峰が相模の国一帯に伝わる徳川家康の事績を訪ね、これを顕彰しようとして纏めた地誌。天保10年(1839年)、25誌を編纂し幕府に献上した地誌の藤沢宿の全容です。



「東海道分間延絵図」にみる京方見付付近



白旗神社、山王神社、まち並みが見られます。ラッピングされたトランスボックス付近のまち並みの様子です。



大鋸橋(現遊行寺橋)付近の様子



①



②



③



④

大鋸橋(現遊行寺橋)付近の旅籠町界隈の様子。

①高札場(中央)や三層の茶屋。(明治初期)

②震災1年後の大鋸橋・旅籠町付近の様子。

③遊郭のなごりの旅館。

④大鋸橋と学生服姿らしい行く人。右奥の白い建物は県農工銀行。(昭和初期)



旧藤澤のまち並み



①



②



③

①藤澤町市街の一部(現遊行寺橋バス停付近の国道)。

「火の見やぐら」から見たまちの姿。

②仲久保町付近の様子。

③稲元屋の店舗や街灯、馬車が見られます。昭和初期の風景。



藤沢小学校



①



②



③

①②明治6年成美学舎が設立、藤沢小学校の創立とされた最も最初の小学校。明治30年に現在地に校舎を建設し現在に至っています。藤沢小学校の姿(明治40年頃。スタンプには「藤澤大坂町立尋常高等藤澤小学校」「新築7周年記念」「40,1,1」と記載されています。①表門。②裏門。

③奉安殿の落成記念。当時の生徒の姿、先生の姿が写されています。

16

金融機関等



①



②



③



④

- ① 藤沢郵便局舎(現本町郵便局)。「集配人募集」「自局緊急なる事業の要に供する電話の申し込み受け付けを致します」の垂れ幕が掛かっています。
- ② 横浜興信銀行。
- ③ 駿河銀行。脇には中島酒店と飲食店が写っています。
- ④ 中島酒店本店と店先に並ぶ人。

17

本町通り、町役場



①



②



③

- ① 三觜茶舗前の道路舗装工事の様子。工事車には日本石油道路部と記された舗装工事車両。(昭和5年頃)
- ② 大正12年以前の本町通り。右側に内田仙吉商店が写っています。
- ③ 明治41年藤沢町が誕生し役場が置かれ、昭和15年藤沢市が誕生。昭和25年に現市役所へ新築移転後、町役場のあとに図書館や公民館が昭和26年に開館しました。その後、藤沢公民館は昭和39年に建て替えられました。

18

藤沢復興図とまち並み



①



②



③

- ① 大藤沢復興図。昭和5年震災復興を記念して作成された案内図で主な商店、名主邸、公共建物、名所旧跡など記され当時の藤沢町が収められています。「御殿山ゴルフ場」、「競馬場」も書かれています。
- ② 藤沢全景の一部。「火の見やぐら」からのまち展望風景。街道筋に4か所の「火の見やぐら」が建てられている事が復興図に記されています。
- ③ 本町通りホンダモーター「ヨネヤマ」、「きのくにや商店」、「大衆割煮さつまや」と書かれた店舗が写し出されています。



坂戸町付近の風景



①



②



③

- ① 藤沢警察署の全容(現本町消防署敷地)。当時のこの地区には官庁や銀行等の建物が立ち並んでいました。
- ② 震災1年後の復興した東坂戸町、自転車店らしい店先が写されています。
- ③ 西坂戸町のまち並み。大正13年頃のまち通りの様子。



建物風景(済美館・鎌田屋・梶荘本店)



①



②



③

- ①「済美館」は昭和17年武道場として飛嶋氏によって建築され市に寄贈されました。明治3年に創設された「藤沢町学問所済美館」の名にあやかり命名され、市民の武道錬成の場として利用されました。平成2年建て替えられ「世々その美を濟す」と言う「済美館」原意通り生涯学習の拠点として「済美館」(藤沢公民館分館)と命名されました。当時の武道場と武道場に入る姿を描いた絵です。
- ② 鎌田屋商店(紙商)は明治10年代創業。石蔵は明治から昭和初期の米穀肥料問屋のまち並みをあらわしています。
- ③ 梶荘本店は漁網関係の藤沢の代表的な商店でその店蔵風景。

21

建物風景(廣瀬家・平野家・田村家)



①



②



③

- ①旧名主「廣瀬家」門構え。名主とは江戸時代の地方役人で村政を担当した首長。廣瀬家は伊賀屋の屋号を持ち藤沢宿の為に尽くされました。
- ②明治初期当時の「鎌倉屋平野屋松兵衛」の建物で、薬種業(現在のドラッグストアの店舗)を営まれていました。
- ③「田村屋」(高級呉服商田村安兵衛の建物)。

22

藤沢本町駅舎・藤沢高等女学校・白旗神社



①



②



③

- ①「小田急藤沢本町駅」駅舎。電車は上り新宿行の行先プレートを付けた2両連結で満員の乗客。
- ②「旧藤沢高等女学校」の当時の校舎。前身は町立藤沢実科高等女学校で開校は大正14年。(何れも昭和12年ごろ)
- ③白旗神社お祭り風景。大賑わいの様子を描いた絵。



元藤沢橋自動車排出ガス測定所前看板

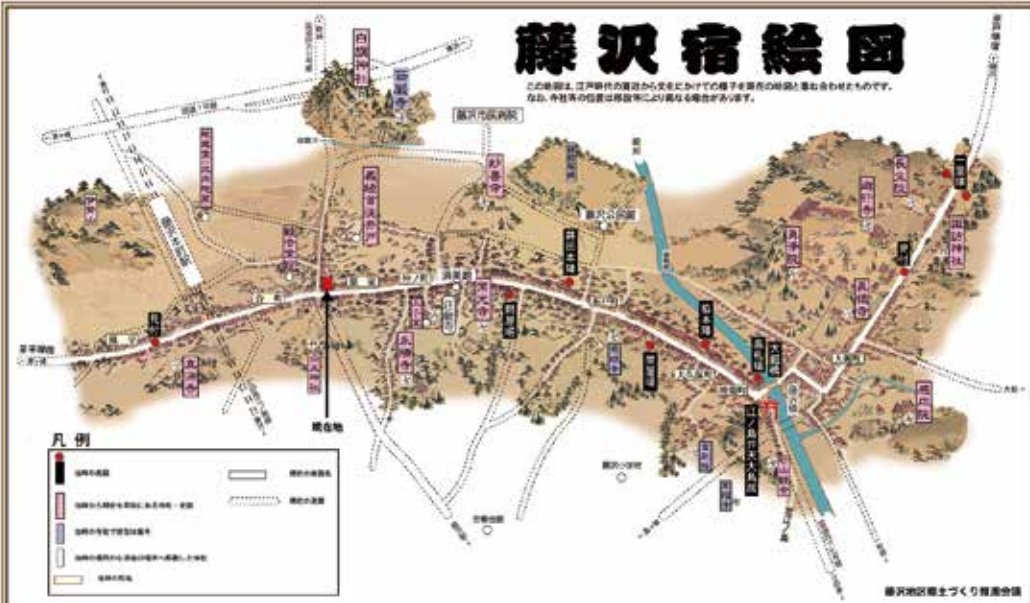


とうかいどうぶんけんのかえず
 「東海道分間延絵図」から藤沢宿全体の姿を知ることが出来ます。
 「東海道分間延絵図」は江戸幕府が東海道の状況を把握するために、道中奉行に命じて測量に基づいて作成させた詳細な絵地図で、当時の藤沢宿の様子も細かく記されています。絵地図、解説図、説明文を合わせてご覧いただき、トランスボックスめぐりをして頂くと面白いと思います。「東海道分間延絵図」作成の命が幕府より出されたのは寛政年中(1789~1801)のことで、文化3年(1806)に完成しました。

藤沢宿



白旗交差点際看板「かながわ信用金庫本町支店」横看板



「東海道分間延絵図」に描かれた江戸時代の藤沢宿を現在のまちな姿に重ね合わせて作成した絵図です。当時の姿に現在の姿を比較してトランスボックス巡りをして頂くと面白いと思います。



案内板

1 懐かしの市役所庁舎



(右)昭和26年築の庁舎
(左上)庁舎航空写真(昭和29年)
(左下)消防署地下車庫

昭和26年現公民館である藤沢町役場が朝日町に移転した当時の庁舎。国道際には消防署、本館には望楼がありました。新庁舎建設の為(平成29年12月竣工)取り壊される前の懐かしい庁舎。

3 開山忌(遊行寺)



(右)大銀杏前の屋台と賑わう参拝客(昭和29年)

(左上)植木市の風景デッサン
(左下)遊行寺境内の風景(昭和20年代)
火災や震災で何度となく壊滅した遊行寺はその都度再建され、藤沢市民にとって大切なお寺でした。遊行寺の開山忌ははじめ様々な行事には必ず市民が参加し、市民にとって切っても切れないお寺でした。

5 藤沢宿街道筋の歴史ある神社仏閣



(右)永勝寺 1596年中興、江戸時代の旅籠で働いていた飯盛り女を供養する「飯盛り女の墓」があります。

(左上)荘厳寺 1184年神仏分離により白旗神社から当地に移転しました。義経の位牌が祀られています。

(左下)常光寺 1572年開祖。江戸時代からの樹齢350年の樹木等境内には多くの樹林が残されています。

7 藤沢宿街道筋の見どころ景観



(右上)大清水境川のアジサイロード
(右下)庁舎横の桜並木

(左上)西富憩いの森 (左下)伊勢山公園
藤沢本町駅裏手の伊勢山公園は江の島が見える桜のスポット。「市みどり基金」第一号の「西富憩いの森」、大清水境川アジサイロードは地域の人、三者連携委員等によって手入れされ、梅雨の時期には見事なアジサイが咲きます。

9 賑わう懐かしの銀座通り



(右)ふじさわまつり風景(昭和46年)
(左)藤まつり風景(昭和35年)

昭和30年第一回「ふじまつり」を開催、昭和42年「藤まつり」、昭和49年に現在の「藤沢市民まつり」へと変わりました。当時の賑わいが見られる懐かしい風景です。

2 藤沢宿街道筋の歴史ある神社仏閣



(右)遊行寺 1325年第4代呑海によって開山。幾度かの火災等の災難に遭遇。1859年に建てられた中雀門、樹齢680年の大イチョウがある時宗総本山。

(左上)諏訪神社 1335年創立、大鋸由来の鋸や「四神剣」が展示されています。

(左下)感応院 1218年創立、源頼朝が三島神社を勧請し三島大明神が祀られている藤沢で最も古い寺。

4 藤沢宿街道筋の歴史ある神社仏閣



(左)白旗神社、(右上)妙善寺
(右下)真源寺

義経公を祀る「白旗神社」、付近には首洗いの井戸、弁慶塚等があります。「妙善寺」は1504年創立の日蓮宗のお寺で蒔田本陣の家の墓があります。「真源寺」は1681年創立の浄土宗のお寺。

6 懐かしい市役所の前身



(左上)市第1号の公民館(昭和26年)
(左下)大正7年に建てられた木造2階建庁舎のデッサン

(右)公民館図書館

明治11年高座郡役場が設立され、昭和26年朝日町に移転されるまで市の発祥地として機能してきました。その後「福祉会館」、市第一号の「公民館」として地域に貢献し、2019年4月「新公民館」オープンと共に「現公民館」は役目を終えました。

8 藤沢宿街道筋のまちなみ景観



(右)桔梗屋 (左上)三鶯茶舗、内田商店
(左中)鎌田屋蔵 (左下)旧石曾根商店

震災、大火によって明治時代の繁栄していた「まち姿」が一変しましたが、当時の面影を残す明治時代や震災後の建物が残っています。当時の町屋(商家)の面影を残している街並みです。そうした建物を歩いて見て下さい。

10 思い出の藤沢駅北口



(右)藤沢駅北口風景(昭和30年代)

(左上)藤沢駅舎(昭和30年代)

(左下)オリンピック開催に向けて歓迎体制を整えた市内の様子(昭和39年)

明治20年「藤沢停車場」が開設以来藤沢の拠点として発展してきました。30年代の駅風景です。

見どころポイント

お参り時にはこんな観点からも見学すると面白い神社仏閣

遊行寺



時宗総本山遊行寺 正式名は藤澤山無量光院清浄光寺 開山遊行4代他阿呑海上人、本尊阿弥陀如来坐像、正中2年(1325年)創建。東海道随一と謳われる木造本堂をはじめとした伽藍(10棟)が国の登録有形文化財に登録、樹齢700年と推定される大銀杏などを有する。宇賀神社に祀られる宇賀弁財天は開運弁財天ともいわれ、俗に銭洗弁天として江戸時代から藤沢宿の人々に銭を洗うことによって、財福を招くと信仰されている。

●七福神…弁財天



中雀門安政年間創建。屋根に菊、葵の御紋が刻まれています。



堀田家3代の墓。その他稲葉一族の墓、酒井忠重はじめ歴史上の方々の墓碑があります。



三宝の松の木
3本の葉はお宝



「地蔵堂」と「なでなで地蔵」(左)

真徳寺(赤門)



「赤城の子守唄」で知られる板割の浅太郎の墓

長生院



照手姫の墓。他に小栗判官、小栗判官の家臣、鬼鹿毛(愛馬)の墓も祀られています。

白旗神社

祭神-寒川比古命・源義経公、例祭日7月21日、創立年代は不詳であるが、相模国一之宮寒川神社を勧請した。建久9年(1198年)真言宗莊嚴寺の覚憲が別当となる。文治5年(1189年)奥州で敗死した義経の首がこの地に葬られたことから、宝治3年(1249年)より義経も合祀するようになった。宝暦2年(1752年)社殿を再建し、東海道旧坂戸町総鎮守となり白旗神社と称した。

●七福神…毘沙門天



義経公の鎮靈碑



弁慶の力石



「義経没後830年」、「義経鎮靈碑合碑20年」を記念して建立された「義経と弁慶銅像」(2019、10、28 建立)



弁財天道標、庚申塔群



弁慶松。そのほか義経松・藤、桜など、是非ご鑑賞ください。

諏訪神社

祭神-建御名方富命・八坂刀売命・天照大神、境内社祖霊社・太子社・大黒天社・道祖神・創立建武2年(1335年)、例祭日8月25日、遊行寺を創建した遊行4世吞海上人が山内に勧請し、遊行寺の鎮守とした。その後、たびたび修復を重ねたが、元禄12年(1699年)現地に移した。明治維新の神仏分離により遊行寺から独立したが、今でも例祭の時には神輿が遊行寺本堂前に渡る。

●七福神…大黒天



昔は神輿とともに市内を巡った四神剣が展示されています。



長虫(蛇)神社・大正4年

常光寺

3p案内図 A-E



本尊-阿弥陀如来、開山明蓮社光誉(西隠)、創立は元龜3年(1572年)、享保年間(1716~36年)遵問により中興再建される。元文4年(1739年)火難にあい、宝暦12年(1762年)になって再建される。境内に続く寺林約7900平方メートルは旧宿場町のなごりを残す樹林で、市指定の天然記念物となっている。浄土宗。

●七福神…福祿寿



太子堂、祖霊神、大黒天社、道祖神が祀られています。



鎌倉時代のこの地に大木が繁り船大工が伐採して船を造るのに使った鋸で大鋸(だいぎり)と言う地名になった証拠の鋸。



御神灯
天保13年(1842年)

莊巖寺

2p案内図 A-E



明治8年(1875年)神仏分離により白旗神社から当地に建てられ、義経の位牌が安置されている。高野山真言宗。

妙善寺

3p案内図 Aの上



1504年(永正元年)創立。本陣を勤めた「時田家」の墓がある。日蓮宗。

金砂山観音

3p案内図 B



別名「帯解観音」と呼ばれ安産子育ての観音様と言われています。

永勝寺

2p案内図 A-E



元禄4年(1691年)創立。飯盛女の墓があり裏に小松屋源藏の文字。浄土真宗。

真源寺

小田急線・藤沢本町駅 南



天和元年(1681年)創立。弘法大師像が安置されている。浄土宗。

船玉神社

3p案内図 B



船玉とは船霊のこと。船中に守り神として祀られる神。木材を切り出し輸送した場所(大正橋付近)も残っています。

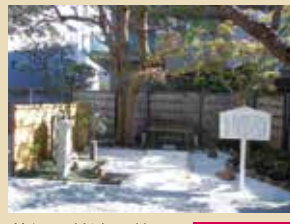
街道の奥に入ると史跡や緑が広がっている散策スポットが見つかります。

大昔は、藤沢宿街道辺りまで海が迫っていて海からの浜風によって砂丘が形成され、その淵の小山には緑地が広がり素晴らしい散策コースとなっています。



旧石曾根商店の脇の道路から山側に。郵便局斜め前の道路から山側に。

街道から



義経の首洗い井戸 2p案内図 A-E



義経の家来である弁慶の「弁慶塚」と刻まれた石碑。



旅籠で働いていた飯盛り女の墓。小松屋の墓地に供養されています。(永勝寺)



藤沢警察発祥の地。明治15年、邏卒屯所として設置されました。



小川泰堂住居「笑宿庵」の跡地と墓地跡。小川泰堂は宿場町の医師、知識人として知られました。

桔梗屋店舗蔵 3p案内図 A-1



明治44年(1911年)築。江戸時代からの茶・紙問屋を営んだ旧家。江戸型の店蔵の典型であり藤沢で「蔵のまち」を伝える唯一現存する店蔵です。

みつはし園茶舗



大正14年(1925年)建築。明治43年創業、木材は羽鳥村の引地山で調達、大工も羽鳥村から呼んで建築したとのこと。藤沢の町屋の形式の建物です。 3p案内図 A-2

関次商店の蔵 2p案内図 A-6



明治6年(1873年)創業の米穀肥料商。明治19年築の穀物蔵、明治40年築の肥料蔵があります。米穀肥料商として広範囲に商圏を拡大しました。

「旧関次商店」お蔵がパン屋さんに…



旧稲元屋の南蔵・北蔵



弘化2年(1845年)創業の雑貨新炭商・呉服商。店舗は藤沢大火で焼失し、店蔵と袖蔵を再建しました。 3p案内図 A-2

旧鎌田商店の蔵



明治30年(1877年)築。明治10年代の紙商で石蔵のみ存在。石蔵は米穀肥料の保管庫。藤沢は明治から昭和にかけて肥料商や米穀の集荷商が集中しその姿を伝える貴重な存在です。 2p案内図 A-3



明治時代築の肥料蔵をリノベーションしてパン屋さんに。肥料蔵であった蔵が酵母入りパンやお茶が楽しめる空間に衣替え。蔵を偲びながら楽しい一時をお過ごし下さい。

お蔵や商家の活用例

内田商店の蔵 3p案内図 A-2



大正6年(1917年)建築。骨組を木造、壁を石組とする蔵。石材は房州石の最高級の桜目(さくらめ)で、横須賀から牛車で運んだとの事です。

旧石曾根商店 3p案内図 A-1



大正13年(1924年)建築。明治34年創業の履物店。天井高く、商品や材料を納める棚を設けています。

「旧石曾根商店」さんの店内の様子が見られます



内田商店 3p案内図 A-2



昭和4年(1929年)築。屋号は「箱専」と言い江戸時代は指物師を営み明治に銅鉄問屋に転じました。藤沢の町屋の代表的建物です。



「旧石曾根商店」さんは明治創業の履物店で大正6年建築そのままの商家。現在は住居として使用されており、歩道側の扉カーテンの合い間から、当時の履物商作業場の造作が見られます。履物や道具類が綺麗に陳列されて、懐かしい履物、道具や当時の店内の様子が見られ、3月は綺麗に飾られたお雛様も見ることが出来ます。



チョット 立ち寄って 味わってみよう



街道筋にある飲食のお店。和菓子屋さんには江戸時代からの、また白旗神社、遊行寺に纏わった伝統的なお菓子屋のお店です。お気軽にお店に入ってお菓子を味わい、店自慢のラーメンやお寿司、洋食を楽しみ、一息入れて下さい。

ラーメン小松屋

営業時間 11:00~15:00/17:30~24:30
定休日 火曜日
TEL 0466-23-4880



ご先祖様は「飯盛り女の供養墓」で馴染みの旅籠「小松屋」(小松屋源蔵)で、旅籠があったこの場所をそのまま利用し兄弟妹で営んでいます。誰でもが食べられる様にとニンニク、脂控えめでお好みに合わせて足すことが出来ます。おすすめは自家製チャーシュー、餃子。落ち着いた雰囲気でご気軽に食べられます。

3p案内図 A-②

寿司和食 さつまや本店

営業時間 11:00~15:00/17:00~22:00
定休日 火曜日
TEL 0466-23-2487



寿司と鹿児島の味どころの「さつま屋本店」は藤沢で一番古い老舗のお寿司屋さん。寿司以外に和食、会席料理、鹿児島郷土料理が楽しめます。和室、カウンター席で敷居の低い地域密着のお店で年配の方、小さいお子さん連れのご家族の方にも人気です。ご自慢の寿司シャリの美味しさをお楽しみ下さい。

3p案内図 A-②

レストラン エルカリーニョ

営業時間 11:30~14:00/17:00~25:00
定休日 なし
TEL 0466-26-1500



おすすめはステーキ。オージービーフステーキとハンバーグ、本格的なメキシコ料理をリーズナブルな価格で提供しています。個人でもグループでも皆さんで自慢のお味を召し上げられ。

2p案内図 A-②

ラーメンたま屋

営業時間 17:00~23:00
定休日 月曜日
TEL 0466-22-6075



おすすめはラーメンとミニカレーのセット。ワンコインで食べられるリーズナブルな人気メニューです。お子さんも食べられる昔ながらのラーメン屋さん。しかし営業時間は夕方から…。

2p案内図 A-②

和菓子 豊島屋本店

営業時間 10:00~18:00
定休日 火曜日
TEL 0466-22-2046



創業嘉永2年。初代当主は蒔田本陣お泊りのお殿様に手製のお菓子を届けたとのこと。江ノ島海岸でかつて採れた松露キノコを蜜付けし練り込んだ「松露羊羹」は伝統の人気商品でした。「古跡煎餅」「松露羊羹」は明治44年に「第4回全国特産品博覧会褒賞」功金勝牌を受賞したほか数々の表彰を受けました。おすすめは、「当店は季節季節の和菓子の店で毎季節ごとのお菓子は全ておすすめ。昔のままの材料製法で作っています。」(若女将)

3p案内図 A-②

和洋菓子 松月堂わびすけ

営業時間 8:00~17:00
定休日 水曜日
TEL 0466-22-3352



おすすめは1日500個限定の生ドーナツ。
親子3代で美味しいお菓子を作っています。自家製ミルク氷の専門店
「あずきや氷伝(こでん)」も好評です。

3p案内図 C

菓匠 いもと

営業時間 10:30~16:00
定休日 火曜日
TEL 0466-22-2864



おすすめは全国菓子大博覧会金賞の「一つ火」と会長賞の「栗の里」。
遊行70代上人一求上人、小栗堂上人から一つ火供養の際の「奉納菓子」の依頼を先代店主が賜り考案され現在まで受け継がれているお菓子です。歴史あるお菓子をご堪能下さい。

遊行寺境内

御菓子司 松月

営業時間 9:30~19:00
定休日 水曜日
TEL 0466-23-1336



昭和11年創業の菓子の老舗。時宗総本山遊行寺の御用達として菓子の委託をされるなど地域に密着しています。湘南藤沢を代表する和菓子司の逸店。

3p案内図 B

和菓子 古美根菓子舗

営業時間 9:30~17:30
定休日 水曜日
TEL 0466-22-3929



先代が白旗神社宮司より依頼され神社の御紋紋を型とった御紋菓としてご用命、宮司より「笹りんどう最中」と名付けられました。大正12年創業の老舗菓子店舗。店舗横には厚木、寒川方面に向かう旧道があって、店先で大福食べて弁慶の力石を上げたり一息ついた光景が見られたとのこと。白旗神社の行事や地域の行事に深く関わられているお店です。

白旗神社向かい

青果 小沢商店

営業時間 9:00~19:00
定休日 日曜日
TEL 0466-22-0233



野菜は湘南野菜、果物は特定産地の美味しい商品。みかんなどは産地の生産者までこだわる地元の八百屋さん。おすすめ白菜づけ、たくわんを是非ご賞味のほど。

2p案内図 A-4

喫茶とスナック ぽっぽ

営業時間 喫茶9:30~16:30 定休日 水・土・日・祭
営業時間 スナック19:00~24:00 定休日 日曜日、祭日
TEL 0466-25-1870



昼と夜と二通り楽しみ方が出来る店。
日替わりメニューランチが大人気(11:30~14:00頃まで)。
家庭の味が受けています。

2p案内図 A-4

カフェ 凜

営業時間 12:00~23:00

定休日 火曜日

TEL 0466-25-3135



「ほっ」とできる空間、安心して入れる母娘経営の喫茶店。店内で丁寧に手づくりのメニューは美味しいと言って頂く為に…。パスタが淹れる本格コーヒー。おすすめはカプチーノとエスプレッソ。そしてお店でソースから仕込むカレー、パスタ也大評判。

2p案内図 A-6

とんかつ 正力

営業時間 11:30~15:00、17:00~21:30

定休日 木曜日

TEL 0466-25-7430



親子で経営する落ち着いた雰囲気のとんかつ屋さん。お昼時間のランチメニューが大評判。店主が宮崎出身で本格的なチキン南蛮。揚げたてのお料理が楽しめます。

2p案内図 A-6

パンの蔵 風土

営業時間 9:00~15:00

定休日 月、火曜日

TEL 090-2147-6314



関次商店蔵を利用したパンの蔵 風土。2019年1月にオープン。朝一番に酵母の餌やりから始まり、酵母の様子を見ながら「今日も元気でやってくれよ」と願を掛けて【酵母仕込み】のパンづくり。「その日、その時期、その季節、その年のパンの味をご賞味下さい。」(店主ご夫婦)

2p案内図 A-6

蕎麦 ひら井

営業時間 11:30~14:00、17:30~21:00 売り切り次第終了

定休日 火曜日、第1、第3月曜日

TEL 0466-24-5091



蕎麦粉は山形、北海道産で自家製粉、手打ちで美味しさを伝えるお蕎麦屋さん。おすすめの綿実油と太白ゴマ油を混ぜてカラッと揚げた天盛りそばが大評判。

2p案内図 A-6

甘味喫茶 だんげ

営業時間 11:30~20:30

定休日 日曜日

TEL 0466-23-7625



昭和40年から愛されている手づくりと素材にこだわる甘味喫茶のお店。おすすめはあんが北海道産の小豆、寒天が伊豆産の天草使用の手作りあんみつ。お食事は肉丼も召し上がれ。

2p案内図 A-6

やきとり きねもと

営業時間 17:30~24:00

定休日 日曜日

TEL 0466-25-8869



炭火を利用して焼く焼き鳥、焼き魚のうまい店。店主の出身地秋田の地酒・郷土料理を取り寄せ、新鮮で美味しいメニューを提供。おすすめは「季節にあわせたメニュー」から。締めめの稲庭うどん也大評判です。

2p案内図 A-6

焼き立てパン JACOMO'S

営業時間 7:30~19:00
定休日 火曜日、月に一度月・火連休
TEL 0466-24-4099



流行りのパンでなく赤ちゃんからご高齢の方まで食べやすく面白いパンを焼いている店。おすすめは湯ごね食パン。種類豊富なパンが楽しめます。

2p案内図 A-4

やきとり 潤屋

営業時間 11:30~14:30、17:00~23:00
定休日 日曜日
TEL 0466-28-8989



おすすめは安曇野鶏を使用した炭火焼のやき鳥。焼き鳥丼とジュシーなから揚げ定食が好評です。

2p案内図 A-4

創作ダイニング かしわ

営業時間 ランチタイム(土・日・休) 11:30~14:30
17:00~深夜2:00
定休日 無休 TEL 0466-51-8242



新鮮な魚と串揚げが自慢のお店。和食と洋食で創作料理を楽しんで頂く事を目指しています。和なら刺身、串揚げや煮物、洋ならカルパッチョやパスタなど。おすすめは串揚げ、レバーペーストのブルスケッタ。

2p案内図 A-4

お好み焼き、 もんじゃ焼きいくま

営業時間 17:00~23:00(ラストオーダー22:00)
定休日 火曜日
TEL 0466-25-1454



本場月島伝授もんじゃ焼き、ブレンドソースと特製マヨネーズソースが自慢のお好み焼きが大人気。おすすめは「特大満足玉天」(お好み焼き)、「もち明太もんじゃ」は絶品です。

2p案内図 A-4



藤沢市

ふじさわ宿交流館



藤沢宿は、江戸時代には旧東海道の宿場町として、大山詣りや江の島詣をする人々の交通の要衝としてにぎわいました。

ふじさわ宿交流館では、江の島・藤沢ガイドクラブの案内による予約ガイドを随時受け付けています。藤沢宿周辺はもとより、江の島など藤沢市内全域のガイドのご相談に応じていますので、お電話でお申込みください。見本コース等はふじさわ宿交流館ホームページをご覧ください。

問い合わせ

指定管理者(公社)藤沢市観光協会

藤沢市ふじさわ宿交流館

TEL.0466(55)2255 FAX.0466(20)5152

<https://fujisawashuku-kouryukan.com/>

〒251-0001 神奈川県藤沢市西富1-3-3

■休館日 月曜日(休日の場合は翌日)
1月1日および12月27日～12月31日

■アクセス 駐車場はありません。
公共交通機関をご利用ください。

電車/JR藤沢駅北口～徒歩14分

小田急江ノ島線藤沢本町駅～徒歩15分

バス/JR藤沢駅北口5番乗り場「戸塚バスセンター」行
または「俣野公園・横浜葉大前」行乗車
(所要時間約5分)→「藤沢橋」下車徒歩1分

藤沢宿の歴史

藤沢宿は慶長6年(1601年)東海道五十三次の宿場として誕生しました。遊行寺坂の江戸方見付から伊勢山橋先の京方見付までの街道に当時の大鋸、大久保(現本町1丁目、藤沢1丁目付近)、坂戸(現本町4丁目、藤沢2丁目、藤沢3丁目)の3町で構成され、天保14年(1843年)頃の記録によると、宿場の人数は4089人、家数919軒、本陣1、脇本陣は大久保、坂戸に各1軒、問屋場2軒、旅籠は大鋸橋(現遊行寺橋)付近に45軒あったと記録されています。

徳川家康、秀忠、家光の3代が利用した將軍宿泊施設として藤沢御殿が慶長元年(1596年)に設置され、その後、本陣、脇本陣は明治3年に廃止されました。参勤交代が制度化される頃には大名の宿泊施設として民間の本陣、脇本陣などが整えられ御殿は廃止されました。藤沢宿は主要街道(東海道、鎌倉道、大山道、江の島道)の分岐点として通行する人々に賑わい、特に大山詣で、江ノ島詣での旅人の宿泊、遊興の場所として賑わいました。

明治になって地の利を生かした問屋業を中心に発展、また農作物の集積場として肥料販売業や農作物を買い入れる米穀肥料商が居を構え流通地として栄えました。大正12年の大震災や戦火、自然災害、大火がありました。当時の面影を残す土蔵や商家建築(町屋)が点在しています。また市の発祥地として官庁街を形成しました。

発行：藤沢地区郷土づくり推進会議

協力：ふじさわ宿交流館

第6版：2024年(令和6年)3月